12月に向けて

代表取締役　三田雅憲

「暑い暑い」と言っていたのが、いつの間にか「寒い寒い」という言葉にかわり、人間はいかに勝手だなと思いながらも、朝、ベットから出るのが大変であると思います。
今月は故 野村克也監督の一文をご紹介したいと思います。

「若い時に流さなかった汗は年老いて涙にかわる」
若い時にどれだけ汗をかいたか、つまりどれだけ努力したか。この結果は将来、年老いてから分かることになる。もし自由気ままに楽して若い頃を過ごしていたら、歳をとってから苦労することになるだろう。年齢を重ねてから涙を流すことになる。という訳だ。プロ野球選手にせっかくなっても真剣な練習をせず、自分の楽しみ（酒を飲み、ギャンブル）ばかりに時間を費やす選手は、クビを宣言されてから「もっとしっかりやっていれば良かった。」「練習しておけば良かった。」と後悔する選手を私は何人も見てきた。すでに何度もお伝えしたように、若いうちから将来の為に勉強して備えることは、野球で身体中心の仕事をしている私でさえ本当に重要であると言わざるを得ない。若い人達が、努力できない理由に「目標を持てない」「モチベーションを保てない」という理由があるだろう。私は「父親を亡くし、貧乏の中女手ひとつで育ててくれた母親を楽にさせてやりたい」という気持ちが強くあった。野球選手となり、活躍し始めると様々な誘惑もあった。毎日同じ練習の繰り返しがバカバカしくなってその世界に浸った時期もあった。しかし、私は毎日バットを振る事だけは辞めなかった。もし手を抜いて遊び歩いてしまっては、あっという間に他の選手にポジションを奪われてしまっただろう。だから素振りは毎日欠かさずしていた。若い時に楽をして本当に良いのか？もう一度立ち止まって考えて欲しい。

と述べられています。もちろん昔と違うことは十分承知していますが、自分の仕事が身体に沁み込むまでは、がむしゃらに仕事に取り組む姿勢が大切であるということは、私自身も実感しております。今、アルバイトやパートが気楽であり、それを転々としてきた40代や50代の無年金問題が一部で問題となっています。年金などの社会保険料をしっかりと支払っていない、職を転々としているので退職金などもあてに出来ないために、一生働き続けないと生活していけない人がいるということです。力量があればまだ会社から要望されて仕事をし続けることは素晴らしいと思いますが、受給できる年金が無いために仕事をし続けることは、病気にでもなればたちまち大変な状況に陥ります。野村克也監督のお話にあったように若い時にしっかり努力することで年老いても安心して暮らせるようにお互いに頑張り続けましょう。